

宮地小だより

1月 

「み」みんななかよく 「や」 やいとげよう最後まで 「じ」 自分からすすんでがんばる宮地っ子

文責
八代市立宮地小学校
校長 嶋村 立馬

ご協力ありがとうございました!!

3学期が始まり、すぐに新型コロナウイルス感染症の急拡大により、1週間の休校となり、保護者の皆様には多くのご負担をかけてしまいました。子どもたちも出かけることもできず、とてもくしい毎日だったことと思います。そんな中でもタブレットの画面で、子どもたちの笑顔を見ることができたことはとてもありがたかったです。初めてのオンラインでの授業だったので、様々な不具合があったかと思いますが、子どもたちが、学校そして友だちとつながる時間がとれたことがとても大きかったです。

休校期間中の学校は火が消えたように静かでとても寂しく、「子どもたちがいてこそこの学校だ」という思いを強くしました。そして24日の登校時に、「おはようございます」という元気な声が子どもたちから聞かれ、とてもうれしく思いました。

3学期の始業式で、子どもたちに雑煮の話をしました。雑煮は、いろいろな地方で、その地方ならではの具材が入っていたりと様々だけれど、私たちが見慣れないお雑煮もその地方の人にとっては大切なお雑煮であることを伝え、自分と違う友だちの考えも大切にしていってほしいことを話しました。

これまで、子どもたちには近くにいる友だちを大切にしていってほしいと話をしてきました。友だちが思っていることを、その人の気持ちになって考え、大事にしようとしてくれたらとてもいいですね。

今、コロナ禍の中で、自分と考えが違う人を受け入れられないような出来事がたくさん起こっています。これから生きる子どもたちには、お互いの違いを認め合い、支え合える世の中を作っていってほしいと思います。まずは、友だちの話をしっかり聞いて、自分の思いもしっかり伝えて、互いに認め合って、次の学年へと飛躍するため、いろんなことに挑戦していってほしいと願っています。

手漉きの和紙づくりに挑戦しました!!

1月14日(金)に、6年生による手漉き和紙づくり体験の授業を行いました。自らが作成した手漉き和紙は、自分だけの卒業証書になります。紙漉きの技術は、宮地町に約400年前に、柳川藩から移り住まれた矢壁新左衛門さんが伝えたとされています。そして、宮地小学校の手漉き和紙づくりは約30年続く伝統行事です。

地域で手漉き和紙技術の伝承・保存に取り組みおられる矢壁政幸さんのご指導の下、子どもたちは自分だけの卒業証書づくりを行いました。

宮地小学校に代々伝わる素晴らしい行事である紙漉き体験、みんなで大切にしていきたいと思いました。ご指導いただきました矢壁さん、本当にありがとうございました。



新型コロナウイルス感染症の感染拡大については、これからも気を抜けない状況が続くと思われます。学校でも感染予防対策に、これまで以上に力を入れていく所存です。保護者の皆様におかれましては、同居のご家族に発熱等の風邪症状が見られる場合も、児童は出席停止となりますので、学校へのご連絡をお願いするとともに、何かありましたら、学校にご相談ください。どうぞ、よろしくお願いいたします。

来週、1月31日(月)から2月4日(金)まで、日課を短縮日課として、感染症予防対策をより強化させていきたいと思っております。下校時間が少し早まりますので、各学年の通信で下校時間をご確認ください。なお、感染症の拡大状況によっては、対応が変わることがありますので、その際は、メールにてお知らせいたします。ご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。